

## トビウオ通信 (R2 第4号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

### 《令和2年度第1回日本海スルメイカ漁況予報》

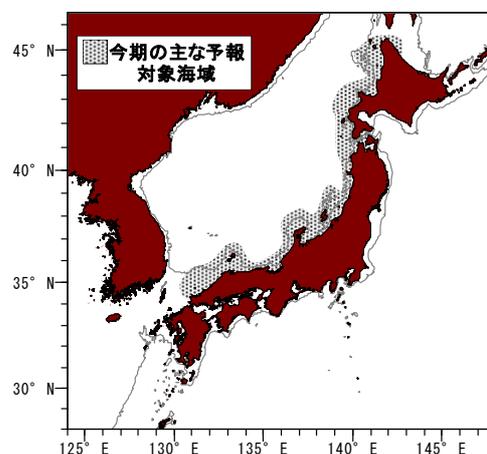
令和2年4月28日に国立研究開発法人水産研究・教育機構（日本海区水産研究所）より「2020年度第1回日本海スルメイカ長期漁況予報<sup>※1</sup>」が発表されました。今回はその概要と島根県沖でのこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

#### 今後の見通し(令和2年5月～7月)のポイント

対象魚種：スルメイカ  
対象海域：日本海沿岸域  
対象漁業：主にいか釣り漁業  
対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：前年および近年平均を下回る。
- (2) 漁期・漁場：主な漁場は本州北部日本海以北で、漁期は近年同様。

\* 近年は最近5年間(平成27年～令和元年)



#### (1) 来遊量

令和元年10月～11月に実施された日本海スルメイカ幼生分布調査では、スルメイカの幼生分布量は平成30年並みで過去5年（平成26年～平成30年）平均を下回る状況でした。また、令和2年4月に実施された漁期前調査（スルメイカ新規加入量調査）では、今期に漁獲が期待されるサイズのスルメイカの分布量は、前年（令和元年）および近年（平成27年～令和元年）平均を下回る状況でした。こうした調査結果から、今期（5月～7月）の来遊量は「前年および近年平均を下回る」と予測されています。

#### (2) 漁期・漁場

対馬暖流域における今後（4月～6月）の表面水温および水深50mの水温は、平年よりも「かなり高め」（平年は過去30年の平均値）で経過すると予測されています（2020年度第1回日本海海

況予報<sup>※2</sup>、国立研究開発法人水産研究・教育機構、令和2年4月8日公表)。今後の海況に近年の資源状況等を加味すると、主な漁場は「本州北部日本海以北」、漁期は「近年同様」と予測されています。

※1～2 は以下をご覧ください。

※1 : <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2020/20200428/20200428nnpress.pdf> (水産研究・教育機構のホームページより)

※2 : <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2020/20200408/20200408press.pdf> (水産研究・教育機構のホームページより)

## 島根県沖でのスルメイカ漁況

主要3港(浜田、西郷、恵曇)<sup>※3</sup>における小型イカ釣(5トン以上30トン未満)によるスルメイカの月別の水揚動向を図1に示しました。令和2年の1月～3月までの水揚量は16トンで、低水準であった前年(55トン)および近年(平成27年～令和元年)平均(265トン)を大きく下回る漁況で経過しています(前年比29%、近年平均比6%)。

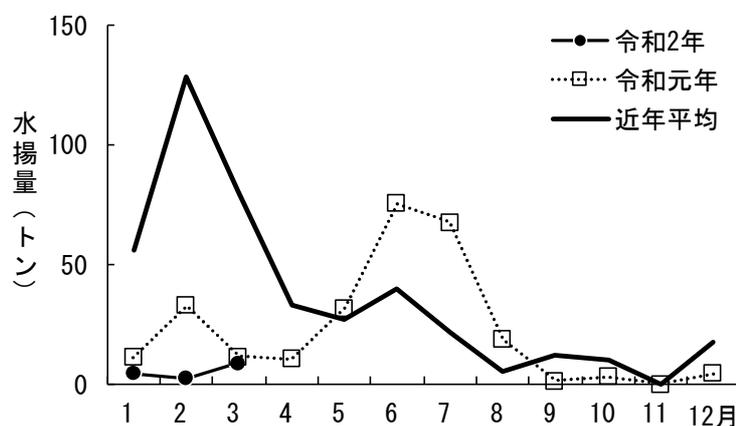


図1 主要3港におけるスルメイカの水揚動向

これは、近年、スルメイカの産卵期における海水温等の環境が産卵に適していなかったため、新規の加入量が少なくなったことが主な要因と考えられます。そのため、スルメイカ全体の資源量が減少し、島根県沖への来遊量が減少したと考えられます。ただし、スルメイカは1年魚であるため、スルメイカに適した環境条件が揃えば資源が回復する可能性もあり、今後の動向を注視していく必要があります。

※3 : 浜田は属地、西郷及び恵曇は属人のデータを集計。